

目次

第1講	論説・評論(1)	自然・科学	2
第2講	論説・評論(2)	社会・文化①	8
第3講	論説・評論(3)	社会・文化②	14
第4講	論説・評論(4)	言語・哲学	20
第5講	論説・評論(5)	文学・芸術	26
第6講	随想・随筆(1)	明治～昭和の文学	32
第7講	随想・随筆(2)	現代の文学	38
第8講	小説(1)	明治～昭和の文学	44
第9講	小説(2)	現代の文学	50
第10講	詩・短歌・俳句	……	56
第11講	演習編 論説・評論(1)	……	62
第12講	演習編 論説・評論(2)	……	68
第13講	演習編 随想・随筆	……	74
第14講	演習編 小説	……	80
第15講	演習編 韻文を含む文章	……	86
入試問題演習	……	……	92

例題

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

20 15 10 5

(注) マイコン：マイクロ・コンピュータの略称。

(中野不二男「先端技術への招待」による)

考察

科学技術が社会に最も浸透した日本で、人々が科学の急速な発展に不安を感じている理由について、筆者の考えが述べられている。

文章の展開

① 日本人が科学の急速な発展に不安を感じているのはなぜか？

一 導入
 ① 問題提示

② 新技術や新製品のひとつひとつが日常生活のどこに組み込まれているのか、われわれは知らない。だが、日本の科学技術は世界のトップレベルにある。

二 本題
 ②・③ 問題の再提示

③ 人々が科学の発展に漠然とした不安を感じるのはなぜか？

④ 問題に対する解答

④ 科学技術の「中身」が見えないのが最大の理由。

⑤ 具体例

⑤ 例えば、太陽電池や液晶の仕組みを知る人は少ない。

⑥ 科学技術の産物の名称だけが先走り、中身が見えないのが不安の理由ではないか。

三 結論
 ⑥ 全体のまとめ

液晶：固体と液体との中間的状态である物質。

問一 — 線(a)～(c)を漢字に改めよ。

(a) 「 」 (b) 「 」 (c) 「 」

問二 — 線①「科学の急速な発展には漠然とした不安を感じる」とあるが、筆者はその理由をどのように考えているか。二十字以内で説明せよ。

問三 — 線②「科学技術の産物の名称だけが先走り、中身が見えない」とは、どういうことか。

最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 人々は、科学技術を用いた製品の名前は知っているが、その材料やつくり方をあまり知らされていないこと。

イ 科学技術を用いた製品は宣伝されていても、一般にはその機能は理解できないこと。

ウ 人々は、科学技術を用いた製品の名前は知っているが、科学技術がどのように用いられているのかは知らないこと。

エ 科学技術を用いた製品は一つひとつが科学技術の産物である部品から成り立っているので、分解しても構造が把握できないこと。

主旨

科学技術の中身が見えないことが人々を不安にしている。

重要語句

◇裏腹＝あべこべ。

研究

① 自然科学…自然・自然現象を研究对象とする科学。身体や脳も自然の一部であり、研究对象となる。普通「科学」ということが多いが、社会科学・人文科学と区別するときには「自然科学」という。物理学、化学、地学、生物学、医学、数学などがある。

② 科学的とは…すべての自然科学に共通する基本的な考え方・方法・態度の特徴は、合理性、実証性であるとされる。この二つの条件を満たしているさまを「科学的」という。この点で、自然科学は、非合理的・神秘的な面をもつ宗教や、感性が大きな意味をもつ文学・芸術や、思弁的な(頭の中で考える)学問、特に哲学などと対比される。

③ 科学的方法の基本…事実の観察・分析↓仮説の構想↓実験による証明↓定説の順をたどる。

④ 現代の自然科学…自然科学は近代になって急速に発達し、現在もますます

まず発展し続けている。その可能性に対する人々の期待は大きい、その反面、自然科学とそれを応用した科学技術が急速に発達して独り歩きをすることに不安を抱く人々も少なくない。現に軍需産業への応用や地球環境の汚染など、その問題は深刻である。科学・科学技術の功罪を問う声は後を絶たない。

⑤ 入試問題として出題される主なテーマ・論点…自然科学の基本に関するもの、自然科学の最新の成果とその可能性に関するもの、自然科学の歴史をたどったもの、自然科学を批判的に論じたものなどである。

〈例〉○科学とは何か ○科学者の社会的責任 ○核兵器・原子力問題

○自然環境破壊・公害問題 ○生態系・自然保護の問題 ○科学の可能性・科学の限界 ○医療をめぐる社会問題

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

Sample

25 20 15 10 5

〔池内了「物理学と神」による〕

重要語句

- ◇黎明期⇨新しい時代が始まろうとする時期。「黎明」は「夜明け」の意味。
- ◇不遜⇨思い上がった態度。
- ◇先駆的⇨経験するよりも先に持っている様子。
- ◇おじゃんになる⇨不成功に終わること。火事を知らせる半鐘の音から出た言葉と言われている。

問一 — 線(a)～(c)を漢字に改めよ。(a)〔 〕 (b)〔 〕 (c)〔 〕

問二 — 線A～Cに入る最も適当な語を、次のア～エから一つずつ選び、記号で答えよ。

- A ア むしろ イ いわば ウ むろん エ いわゆる
- B ア いっこうに イ ふつうに ウ さすがに エ そこそこに
- C ア しかも イ とはいえ ウ ましてや エ のみならず

問三 — 線①「自然を神が書いたもう一つの書物とみなし」とは、どういうことを言っているか。本文中の語句を用いて三十五字以内で説明せよ。

問四 — 線②「矛盾した関係」とは、どういうことか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- A 自然科学を信じるならば神は必要がなく、神を信じるならば自然科学は誤りとする立場になること。
- イ 自然科学は神の存在を証明する役には立たず、自然科学を發展させたのは人間の力だということ。
- ウ 自然科学が正しいとするならば神を否定することになり、神が存在するならば自然科学は不要であること。
- エ 自然科学の發展は神の意図するところではなく、神を信じるのならば自然科学を否定せざるを得ないこと。

問五 — 線③「科学者が神の役割を果たしているかのごとく」とは、どういうことを表しているか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- A 科学者は宇宙のすべての事柄を知っているようだということ。
- イ 人類のすべての疑問に答えられるのは科学者だけだということ。
- ウ 科学者は自然のあり方や自然の法則を決定しているようだということ。
- エ 自然科学によって神を死なせてしまったのは科学者だということ。

問六 — 線④について、アインシュタインはどういうことを言いたかったのか。三十字以内で説明せよ。

問七 — 線⑤「自分に都合がよい神」の内容として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- A 自分が理想とする自然の法則の姿。
- イ 神という名で示される物理学の法則。
- ウ 自分の名誉のために譲れない神の存在。
- エ 自分の主張を裏づける性格をもつ神。

POINT

△Aは「言うまでもなく」と言い換えられる。Bは打ち消しの言い方と呼応する副詞を選ぶ。Cは前の内容とのつながりに着目。△「神が書いた」という隠喩の意味をとらえる問題。神が自然をどうしたというのかをつかむ。

△黎明期では「矛盾した関係にはなかった」ものが、やがて矛盾が現れてきたのはなぜかを考える。

△「神」とはどのような存在であったのかをつかむ。

△アインシュタインが拒否したものは何かをつかむ。

△アインシュタインやハイゼンベルグは「神」をどのように扱ったかに着目する。

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

55 50 45 40 35 30

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(注) ファウスト…十六世紀ドイツの伝説的人物。 対蹠的…正反対である様子。
 (鈴木秀夫「森林の思考・砂漠の思考」による)

問一 [] A・Bに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 机上・足下 イ 自然・神々
 ウ 地上・天上 エ 現実・空想

問二 — 線①「こういう比較」の内容を五十字以内で答えよ。

問三 — 線②「森林の人間」の特徴として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア わかっていることとやみえないことについても大胆な仮説を立てて研究するべきだと考えている。
 イ 視界の及ぶかぎりの事物について、それらの差違に注目しながら

65

60

真理を追究する傾向にある。

ウ キリスト教的な絶対神を信じないため、どんなに努力をしても神には近づけないと思っている。

エ マクロ的な分析は苦手であるが、木の上から見下ろすような分析は得手である。

問四 — 線③「砂漠の人間」の特徴として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 神に近づくため、広い視野に立って万物を判断することを重視する。

イ 砂漠では水が重要なため、生きることや科学の発展に貪欲である。

ウ 万物に対する判断が要求されるが、完全な認識は要求されない。

エ 厳しい自然環境の中で暮らす忍耐強い人間であるため、科学者向きである。

問五 本文で述べられている「科学」の説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 科学は、生活空間や宗教的世界観の違いによりその手法が異なる。

イ 科学においては、とりわけ差違の認識とその整理が重要である。

ウ 科学的研究は、自我中心の思想的風土の下にある人間には難しい。

エ 科学においては、総合よりも分析がより重要になる。

問六 本文の内容と合致しないものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 大発見をする科学者を日本が輩出できないのは、真理の探究という名の下で間違ったことは言えないと考える傾向があるからである。

イ 砂漠的思考の学者には「天地創造」という概念があるため、一大発見も生まれやすい。

ウ 日本人に大胆な発想ができないのは根本に仏教的思想があり、神を絶対視するためである。

エ 科学は分析と総合からなりたつが、マクロ的な思考が発達していない日本では、総合家はあまり評価されていない。

イ 科学は分析と総合からなりたつが、マクロ的な思考が発達していない日本では、総合家はあまり評価されていない。

[]